森林工芸館の あれ これ

no.05
8
2020

昭和、平成、令和…　時代を経て、
オケクラフトは三十七年目を迎えています。
様々な環境の変化の中歩んできた
その、はじまりの一歩を
みなさんは、ご存知でしょうか

戦後、一貫して社会教育を中心とした
まちづくりをすすめてきた置戸町。
「魅力あるまちづくり」を目指しはじまった
町民主体の取り組みの中に
その一歩がありました。

今回は、オケクラフトが生まれる背景にあった
歴史を少し　お伝えしていきます。

No.1 オケクラフトの 歴史 since.1983

オケクラフト はじまりの一歩

1960-70 年代

◎戦後一貫して社会教育を中心としたまちづくりに取り組む
◎高度経済成長により都市部へ人口流出が進み 1970 年には過疎地域指定を受ける
▶「魅力あるまちづくり」を目標に第 1 次置戸町総合計画を策定し、**様々な取り組み**を開始した（pick up）

pick up

様々な取り組み

取り組みを支えてきたのが公民館と図書館。青年読書会からスタートした図書館運動は、農村モデル図書館として独立館が建設され、移動図書館車のサービスも開始した。

これらにより**貸出率日本一の実績を数回達成**した。

旧図書館

1980 年

◎「町民一人ひとりがこの町に住んでよかった」と感じられる町を目指し、第 2 次置戸町総合計画が策定
▶第 3 次社会教育 5 ケ年計画によって、地域の活力を高める**生産教育**がスタート（pick up）
◎身近な存在であった「木」に慣れ親しんでもらうために、毎月 18 日を「木に親しむ日」と定めた
・図書館に木に関する専用書架が開設
・公民館で木工教室が開催
▶町民主体の活動が活発になり、空き住宅を活用した木工作業の専用施設「ぶきっちょの家」が開設

◎木という素材の持つ可能性に刺激され、「ガッポ（空洞木）を活用した木製遊具の製作」に発展

◎町民の活動はさらに活性化し、ぶきっちょの家に施設としての限界が見えてくる
▶1982 年にモノづくりの拠点「**地域産業開発センター**」が開設（pick up）

pick up

生産教育

郷土の基幹産業を教育の視点で捉え、地場資源に付加価値を付けて自分たちの生活文化を向上させるための活動。

人づくり・モノづくり・まちづくりが一体となった創造的な町を目指すという、置戸らしい考え方があった。

地域産業開発センター

農畜産物加工室
（農産加工室）

木材加工室
（木工室）

地域産業開発センター

町民の間に広がりつつある木材資源の見直しの動きの中で、新たな発展を目指し誕生した。地場資源を高度に活用する技術の研究開発と、地域産物を有効利用して生活文化の普及を図ることを目的としている。このため、おけとの基本資源である木材と農畜産物の加工室がある。

1983 年

◎第 5 回置戸町民憲章推進大会で、工業デザイナーの故 **秋岡芳夫**さんが講師として来町
・当時の図書館長が、図書館の「木に関する専用書架」に集められた書籍から芳夫さんの書籍に注目し、「今後の活動の基本になるのではないか」「木工や地域づくりの指導をしてほしい」とコンタクトを取る
・芳夫さんの父 梧郎さんが有名な図書館人であり、置戸の図書館・公民館活動を知っていたことから芳夫さんの背中をおした
▶講演後、町の青年たちとの懇親会の中で森林資源の活用方法として「木工ろくろを導入してみては？」との提案を受ける

おしえて！

作り手養成塾って？

「オケクラフト作り手養成塾」ってどんな制度なの？
毎月こちらで掲載している「塾生さん、いま何してる？」では、塾生さんが過ごす日々の出来事についてお知らせしてきました。今回は研修制度の概要について、　ご紹介します。

研修制度のはじまり
オケクラフト誕生の年（一九八三年）に日本橋高島屋で行われた展示会でデビューし、大好評で注文に生産が追いつかなくなりました。これをきっかけに、オケクラフトの生産が裏作から生業へと移り変わり、翌年に作り手を養成するための研修制度が誕生しました。

研修目的
オケクラフトの振興とまちづくりに寄与する人材の育成。

研修内容
座学と実習により、二年間で作り手になるために必要な知識や技術を学びます。

指導体制
日々の指導は、現役の作り手（片岡祐士さん、志鳥光一さん、佐藤誠さん）が講師となり、関係者の皆さまのご協力をいただきながら、実践的な研修を行っています。

詳細は…
森林工芸館の町ホームページをご覧ください！

養成塾ある一日のスケジュール

8:40	朝礼
8:45	講師講義
12:00	昼休憩
13:00	製作作業
17:15	終礼

（研修は土日祝休み）

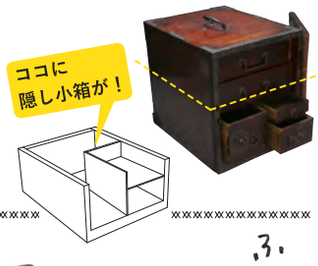
森林工芸館ショップからガラス越しに研修風景を見ることができます。ぜひ応援に来てください！

【船箪笥 －堅牢（けんろう）な用の美】

船箪笥（ふなだんす）は江戸時代から明治にかけて廻船のおもに船頭が長期にわたる船の運航・商取引に必要な免許状や各種書類、金銭や印鑑、筆・すずりといった貴重品を収納していた小型のタンスのことで、現在でいう金庫の役割を果たしていました。

この船箪笥はそのデザインが日本の家具の中でも特異なもので、早くから民藝運動の関係者達に注目され、なかでも民藝運動の先駆者であった柳 宗悦は船箪笥を**「用の美」**の傑作として絶賛しています。 **次号解説**

金庫としての役割があったことから、中箱には隠し抽き出しなどの工夫が見られます。



今日は何を知ろうか

ふかよみコレクション

外箱はケヤキ材に漆を施し、より堅牢に。
中箱は水に浮き、高湿度で膨張するキリ材を用い、防犯に。

今月の一品

かくれた一品　おすすめの一品
毎日　オケクラフトとともにいる
私たちの一品をご紹介します！

商品名：アイスクリームへら
サイズ：縦　120㎜
　　横　20㎜
　　高さ 13㎜
価　格：800 円（税抜き）
樹　種：カバ 他

アイスクリームへら。アトリエもくれん、老泉さんの製作です。

シンプルかつ美しい、そして使い心地抜群のアイスクリームを食べるためだけの道具。食物をおいしく食べるために道具は大切で、アイスクリームだって例外ではないでしょう。

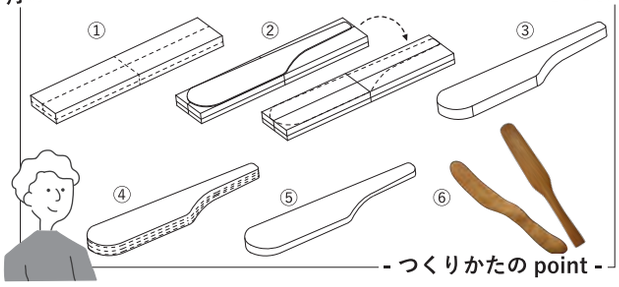
一度使えば、その使い心地にやみつきになること間違いなし。

いつもより静かな今年の夏、ゆったりとアイスクリームはいかがですか。

ショップスタッフ
辻

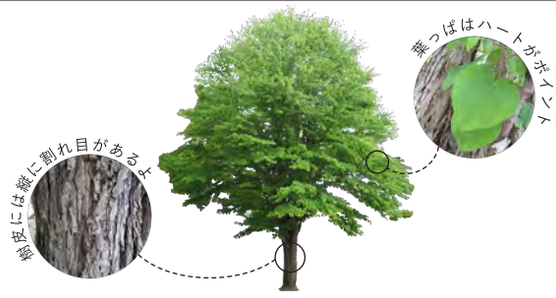
モクモクさん
今月のモノづくりはなんですか？

今月のモノづくりは「バターナイフ」だよ！



- つくりかたの point -

★型紙を作っておくと、板材に書き写す時に便利！
①図の点線のように表面と側面に中心線を書きましょう。
②型紙を板材におき、型紙に沿って下書き線を描きましょう。
③小刀で、まずは正面から見た形を切り出していきましょう。
④次に側面から見た形を描いていきます。
⑤側面から見た形も小刀で切り出していきます。厚さを見ながら丸みを持たせたり、バランスを整えていきましょう。
⑥紙ヤスリやドレッサーで表面を仕上げたら完成です。



季節便り 6 月号では、梅雨の時期を迎えた「カツラ」の葉が取り上げられていました。ハート形の葉が、葉脈に沿って雨露を抱く様子が印象的でしたね。カツラは柔らかく加工がしやすいため、建材や家具材など様々なことに使用されます。森林工芸館のモノづくり教室のメニュー「バターナイフ」やオケクラフトでも使用されています！

色味には個体差があり赤みがかったものを「ヒガツラ」、色が淡いものを「アオガツラ」と呼んで区別しています。素直でまっすぐ育つ姿、身近な所でぜひ探してみてください。

もりのリレー